

道委員会と北見地区委員会 北見、網走の暴風雪被害調査 農家や市から状況を聞く

2日から3日にかけて北海道を襲った暴風雪は、尊い9人の命を奪い、農業施設にも甚大な被害をもたらしました。党道委員会は、畠山和也副委員長・政策委員長を先頭に、菅原 誠12区国会議員団事務所長、松浦、飯田両網走市議が被害現場を調査し、農家と市担当者から状況を聞き取りました。防雪柵が歪んだり、根元から折れて残っているのは基礎コンクリートなど、風雪の異常な強さをあらわしていました。吹き溜まりと猛吹雪で17時間も立ち往生、車の中で待機していたという松浦市議の「生きた心地がしなかった」という体験から、いかにひどい状況だったかがわかりました。車のドアが閉まらず、吹きさらしの車内で家族を抱きかかえてしのいだということや車内にガスの臭いがひどく一刻でも遅れていたらという事態もあったと言います。気象状況の情報伝達、市と道が連携した除雪体制や防雪柵設置箇所などについて検証しただちに改善に着手すべきです。

道委員会は、知事への申し入れをおこなう予定です。この調査には、国会議員団道事務所長が同行しました。



防雪柵と吹きだまった雪と畠山和也副委員長



農家の方から状況を聞く調査団



地下坑道を調査する森つねと氏(手前)と驚見悟幌延町議



豊富町民の会のみなさんと懇談する調査団

森つねと国政相談室長が 幌延深地層研究センターを調査

2月6日、幌延深地層研究センターで基準値を超えるメタンガスの発生で爆発の危険性があり、地下水の大量流出が起きたことから、作業員を避難させるという事態が生じた。この事態を14日までマスコミにも公表しなかったことを重視し、党道委員会は森つねと国政相談室長、天北地区委員会と現地幌延町驚見町議、道原発連の米谷事務所長、馬場国会議員団事務所長が地下250mまでの坑道に入るとともに、センターから説明を受けました。調査団は、事故原因や安全対策、情報公開のあり方を聞き取りました。調査の結果、事故が発生してからの総出水量が正確に算出されていないこと、今後も少なくとも3カ所の断層に突き当たり、大量出水の可能性があることが明らかになりました。森つねと氏は、野崎副所長に対し「正確な情報公開でこれ以上住民の不安を起ささないこと」を強くもとめました。また、調査団は今後の運動での連携を強める契機とするため「豊富町民の会」と懇談しました。

北宗谷農協の石川岳志組合長 「幌延への核廃棄物持ち込みは「ノー」、 「TPP交渉参加反対！」

森つねと国政相談室長と懇談した北宗谷農協石川岳志組合長は、「飲用乳を生産しているところに、核廃棄物を持っていくことは許せることではない」とし、TPP交渉参加について、「条件闘争にするつもりはないし断固反対だ」と述べ、日本共産党への期待を込め、激励してくれました。